

2.学校、家庭、地域、図書館の連携・協力

(1) 家庭、地域、図書館等の連携・協力

すべての子どもが本を楽しむ環境をつくり出すためには、関係する機関が連携し、共通の認識をもって取り組む必要があります。それぞれの施設での、子どもの発達、絵本についての知識等、専門分野における蓄積を生かした情報交換や連携・協力が重要です。

少子化、核家族化、地域コミュニティの希薄化が進む現代社会においては、誰もが育児不安に陥る可能性があるといわれており、孤立しがちな保護者に様々な情報が届くよう、子育て支援のネットワークづくりが大切です。本市では、地域集会所等身近な場所で、親子で自由に遊んだり、親同士で情報交換をしたりできるよう、子育て支援活動を実施しています。絵本の大切さや楽しさにふれる機会が増えるよう、市立図書館から子育て支援施設や子育てサークル等への資料・情報の提供に努めます。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

○子育て支援ネットワーク、地域施設と図書館との連携

〈取組み・成果〉

- ・子育て情報紙に図書館の催しが掲載されるなど、ネットワークを通じて家庭・保護者に向けて情報提供の場が拡大し、市立図書館で実施している事業への参加者が増加しています。
- ・ブックスタート事業を子育て支援施設で実施することにより、身近な施設での読み聞かせ等様々な活動の周知が図られ、子育て支援施設の利用者数が17%増加しています(再掲)。
- ・市立図書館が実施している「幼児期読書環境整備事業」の対象施設を、市立幼稚園・保育所から、平成18(2006)年度より順次、子育て支援施設や私立幼稚園・保育所などにも拡大し、配本実施施設数は49%、ボランティア派遣回数には85%増加しています(再掲)。
- ・区役所に来庁した保護者と子どもが待ち時間等に気軽に絵本を手にとれるように、図書館の団体貸出等を活用した絵本コーナーの設置を行っている区があります。

〈課題〉

ブックスタート事業の実施方法変更により、市立図書館と子育て支援施設との連携・協力が広がりましたが、さらに子育てサークル等への情報提供等を拡大していく必要があります。

【今後の取組み】

- ◇情報提供が不十分であった施設、団体等に対して、図書館事業や絵本についての情報提供等を拡大し、乳幼児とその保護者に向けた読書支援活動が更に充実するよう努めます。
- ◇市民や各種団体、子育て支援施設等と連携して、“One Book One OSAKA”事業の継続・拡充に向けて取組みを進めます(再掲)。
- ☆市立図書館は区役所との連携を強め、区役所内での絵本コーナーの設置をはじめとする読書環境整備を支援します。
- ☆子どもが長く待ち時間を過ごす病院等に、図書館がおすすめする絵本リストを配付するなど、関係機関への情報提供を進めます。

☆は新規の取組みを示しています

(2) 学校を核とした家庭、地域、図書館の連携・協力

新しい学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」をよりいっそうはぐくむことを目指しています。「生きる力」の育成は、学校や家庭、地域が連携・協力して実現するものであり、地域社会の中で子どもを育てる教育コミュニティ（注 33）の活性化を図ることが必要です。子どもの読書環境の充実を図るため、学校を核として、家庭、地域、市立図書館の連携を推進します。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

○学校図書館の活性化

〈取組み〉

- ・平成 20（2008）年度より「学校図書館活性化事業」を開始し、平成 22（2010）年度には全小中学校で実施して、学校図書館の開館時間の拡大、読み聞かせの実施等、学校図書館の効果的な活用を図っています（再掲）。
- ・全小中学校で学校図書館ボランティアが活動しており、学校と連携・協力して、本の修理、館内の整理などの活動を行っています（再掲）。
- ・中学校では、平成 21（2009）年度から実施している「学校元気アップ地域本部事業」（平成 21（2009）年度 8 中学校区、平成 24（2012）年度 76 中学校区）により、学校支援ボランティアが学校図書館蔵書の整理・補修や、昼休み・放課後の開館、絵本の読み聞かせ等を行っています（再掲）。

〈成果〉

- ・平成 23（2011）年度には、3,600 人を超える学校図書館ボランティアが様々な活動を行っています。
- ・小中学校で学校図書館の開館回数が増加しています（再掲）。
- ・学校元気アップ地域本部事業実施校での読書状況調査では、「全く読まない」生徒が減少しています（再掲）。

〈課題〉

- ・学校図書館ボランティアの継続的な活動

学校図書館ボランティアは保護者を中心に構成されている学校が多く、年度ごとに人の入れ替わりが多いため、継続した活動に課題がある学校もあります。また、人数についても学校によりばらつきがあり、人数の少ない学校ではボランティアの確保が課題となっています（再掲）。

○学校と市立図書館の連携強化

〈取組み・成果〉

- ・各校では、必要に応じて、調べ学習や一斉読書などで使用する図書資料を市立図書館から借りています。小学校については、平成 22（2010）年度より団体貸出を利用する際に、学校への直接図書配送も行えるようにしました。市立図書館の団体貸出を利用する学校は 5 割近く増えており、貸出冊数も 75% 増加しています（再掲）。

- ・市立図書館の見学（平成 23（2011）年度小学校 226 校実施）、学校おはなし会への市立図書館司書や読書支援ボランティアの参加（主に小学校）、職場体験学習の実施（主に中学校、特別支援学校）、教員の社会体験研修など、学校と市立図書館の連携が拡充しています（再掲）。
- ・市立図書館ホームページ上に「学校支援のページ」を設け、「図書館活用の手引き」をはじめ調べ学習用のテーマ別ブックリスト等を掲載するとともに、教員の活用を図るため、学校関連のネットワークにリンクしています（再掲）。

〈課題〉

- ・「学校支援のページ」の周知が不十分

市立図書館と学校との連携を円滑に進めるためには、図書館ホームページ上にある「学校支援のページ」について、一層の周知を行う必要があります（再掲）。

【今後の取組み】

- ◇「学校図書館活性化事業」「学校元気アップ地域本部事業」を継続して実施し、学校、家庭、地域の連携により、小・中学校の学校図書館の整備を進め、読書活動を推進します。
- ☆市立図書館で開催する学校図書館ボランティア講座や「学校図書館活性化事業」実践交流会に、「学校元気アップ地域本部事業」で活動する学校支援ボランティアの参加を呼びかけるなど、相互に情報交換、交流できる場の拡大を図ります。
- ◇小学校においては、調べ学習、一斉読書などにおける市立図書館資料の活用等これまで行ってきた市立図書館との連携を継続するとともに、図書館主任会への市立図書館司書の参加等を通して、教員と司書の情報交換、交流を一層進めます（再掲）。
- ☆引き続き「図書館活用の手引き」の配付を行うとともに教員の ICT 活用の進捗に合わせて、市立図書館が実施している学校支援についての周知を拡大していきます。また、中学校・高等学校において市立図書館のサービスの活用が図られるよう、「図書館活用の手引き」に「ティーンズのページ」の紹介等、改訂を行っていきます（再掲）。
- ☆学校の ICT 環境の整備に合わせて、市立図書館ホームページからの蔵書検索や電子書籍等インターネットを通して利用できるサービスの活用について検討を進めます（再掲）。

☆は新規の取組みを示しています

3. 子どもの読書活動に関する普及・啓発

「子どもの読書活動の推進に関する法律」のなかで、「子どもの読書活動についての関心と理解を深める」ため、4月23日を「子ども読書の日」と定めています。様々な機会をとらえ、子どもの読書支援活動についての周知・広報を図っていきます。

読書活動の推進を図るためには、大人と子どもが一緒になって読書を楽しむ場をつくる必要があります。保護者や地域の大人たちに向けて、読書推進の取組みを広く周知していきます。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

○広報・啓発事業の拡大・充実

〈取組み〉

- ・市立図書館では「子ども読書の日」記念事業、「図書館フェスティバル」をはじめとする様々な催しを通じて、広く市民に読書の楽しさを伝える取組みを進めています。
- ・また、平成21(2009)年度より、大人も子どもも一緒になって絵本に親しみ、読書活動の推進を図るため“One Book One OSAKA”事業を実施しました。本事業では、「子ども読書の日」に開催する“One Book”発表会や世代間交流事業等、大人と子どもがともに読書に親しみ交流を図る場の提供を進めてきました。
- ・本市職員が訪問し、市の取組みや暮らしに役立つ情報などを説明する「大阪市出前講座」に「子育てに絵本を」のメニューを掲載し、親子での絵本の楽しみ方や絵本の選び方について啓発を行っています(再掲)。
- ・大阪市立総合生涯学習センターが編集・発行している、市内公共施設を中心とした施設情報を提供する「子どものための施設ガイド『タッチ』」に、子どもの読書活動に関する啓発記事および市立図書館の一覧を掲載し、市内全小・中学生に配付しています。
- ・大阪市生涯学習情報誌「いちょう並木」に市立図書館の催しの一覧等を掲載し、情報提供を行っています。

〈成果〉

- ・「子ども読書の日」記念事業、「図書館フェスティバル」の延べ参加者数合計は86%増加しています(再掲)。
- ・“One Book One OSAKA”事業では、600を超える施設で投票用紙を配布しました。投票数は3か年で68%増加しています(再掲)。
- ・「子どものための施設ガイド『タッチ』」を20万部発行し、市内全小・中学生に配付しています。

【今後の取組み】

- ◇市民や各種団体、子育て支援施設等と連携して、“One Book One OSAKA”事業の継続・拡充に向けて取組みを進めます(再掲)。
- ◇「子どものための施設ガイド『タッチ』」の発行、市内全小・中学生への配付を継続して実施します。
- ◇大阪市生涯学習情報誌「いちょう並木」への市立図書館の情報掲載を継続して実施します。

4. 人と本、人と人をつなぐ場の拡大

子どもたちは、読み聞かせや、身近な人からおすすめの本を紹介されることにより、新しい本に出会います。子どもたちが乳幼児期から読書の楽しさにふれるためには、子どもの読書にかかわる人々が連携・協力し、取組みを広げる必要があります。

読書支援ボランティアや学校図書館ボランティア等、それぞれの場で活動するボランティアの支援を積極的に行うとともに、子どもと本を結びつける市民の交流の場を広げます。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

○ボランティア活動への支援拡大

〈取組み〉

- ・市立図書館では「幼児期図書ボランティア講座」「ブックスタート入門講座」等の各種ボランティア講座を開催し、より多くの方々に子どもと本をつなぐ活動に参加していただくきっかけづくりに取り組んでいます（再掲）。
- ・「幼児期図書ボランティア講座」は「ネットワーク型市民セミナー」を活用しての開催も行っています（再掲）。
- ・各図書館では、読書支援ボランティアグループと連携して様々な講座の開催、資料提供、おはなし組木（注 29）やパネルシアター（注 30）等おはなし会用小道具の貸出、習や打ち合わせ場所の提供等の支援を行うとともに、図書館だより等に活動状況を広く紹介しています（再掲）。
- ・全小学校で学校図書館ボランティアが活動しており、学校と連携・協力して、本の修理、館内の整理などの活動を行っています（再掲）。
- ・中学校では、平成 21（2009）年度から実施している「学校元気アップ地域本部事業」（平成 21（2009）年度 8 中学校区、平成 24（2012）年度 76 中学校区）により、学校支援ボランティアが学校図書館蔵書の整理・補修や、昼休み・放課後の開館、絵本の読み聞かせ等を行っています（再掲）。

〈成果〉

- ・読書支援ボランティア数は 2,400 人を超え、84%増加しています（再掲）。
- ・平成 23（2011）年度には、3,600 人を超える学校図書館ボランティアが様々な活動を行っています（再掲）。
- ・子育て支援施設、学校、市立図書館等と、子どもの読書活動に関わるボランティアとの協働により、読書環境の充実に向けた取組みが大きく拡充しています。

【今後の取組み】

- ◇より多くの方々に子どもと本をつなぐ活動に参加していただくきっかけづくりとして、市立図書館でボランティア講座を継続して開催し、読書支援ボランティアの増加に努めます。
- ◇小・中学校、市立図書館では、子どもの読書活動に関わるボランティアとの協働が一層進むよう、活動支援、情報交換等を継続・拡充します。
- ◇子どもの読書環境充実に向けて、より広く理解を得、多くの方に参画していただけるよう、子どもの読書活動に関わるボランティアグループの活動紹介を広げていきます。
- ☆市立図書館では、図書館とつながりのないボランティアグループとの交流を図ります。特に、学校図書館ボランティア（小学校）や学校支援ボランティア（中学校）との交流拡充に取り組み、ボランティア間の情報交換や連携・協力が進むよう支援を行います（再掲）。

☆は新規の取組みを示しています。

5. 地域・市民を軸とした読書活動の輪の形成

第2章-2-(1)でも述べたように、すべての子どもが本を楽しむ環境をつくり出すためには、関係する機関が連携し、共通の認識をもって取り組む必要があります。

平成22(2010)年を、「国民読書年(注34)」として制定されるなど、読書に関する関心・気運が高まっている現在、「読書の楽しさ」をキーワードに、区役所や子育て支援施設、学校、市立図書館、ボランティア、保護者などさまざまな場・人がゆるやかにつながり、子どもたちがあらゆる場所で生き生きと読書を楽しむことができるよう、取組みを進める必要があります。

【6年間の取組み状況とその成果・課題】

○ボランティアと地域施設等とのネットワークづくり

〈取組み〉

平成19(2007)年度より、各区で「子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、読書支援活動ボランティアグループの代表、区役所や子育て支援施設職員、学校・幼稚園の教員等が参加し、図書館を事務局として情報交換、意見交換を行っています。区によっては、読書マップ(注35)の作成、子どもの読書に関する講演会や「えほんひろば」の開催などに取り組んでいます。

さらに、各区の代表、有識者、市PTA協議会代表等の参加による「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、各区の先進的な取組みを紹介するとともに、「子ども読書活動推進計画」の啓発、「学校図書館活性化事業」や関連事業の進捗について報告、意見交換を行っています。

〈成果〉

平成19(2007)年度から、各区、大阪市全体の「子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、子どもへの読書普及や読書環境の充実等について情報共有・意見交換を行い、その記録を市立図書館ホームページ上に掲載しています。

【今後の取組み】

- ◇引き続き各区、大阪市全体の「子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、様々な立場で子どもの読書活動推進にかかわる施設・人をつなぎ、連携・協力が拡充するよう努めます。
- ◇市立図書館は、地域の子どもの読書活動の相談・支援センターとして、各区の実情を踏まえ、これまで培ってきた子どもの読書支援活動にかかわるネットワークを一層広げ、子ども読書活動推進に向けて取り組みます。